

表4-2

漁場	使用 漁具数	使用 釣針数	マグロ類		カジキ類		サメ類		計		備考
			尾数	釣獲率	尾数	釣獲率	尾数	釣獲率	尾数	釣獲率	
全漁場		257,868本	6,565	2.54	611	0.24	1,412	0.55	8,588	3.33	浮縄23m

マグロ類は、一般的に深い方の釣針での釣獲率が高い結果を得ていたため、漁具の設置層を総体的に深くしてセレベス海とマイクロネシア海域で試験操業した。漁具の設置層は各枝縄を一様に深くするため浮縄で操作し従来の23mから45mに延長した。結果は表4に示したが漁具の設置層を深くした場合は、セレベス海では平均釣獲率7.01%の高率を示し、マイクロネシア海域では2.56%の低調に終わった。また魚種別ではセレベス海の場合は、マグロ類の釣獲率はその上昇が顕著であるのに比し、カジキ、サメ類は低下している。マイクロネシア海域ではマグロ類とカジキ類は低下し、サメ類だけは上昇した。

餌料適否試験

供試餌料魚は、サンマ、ムロアジ、トビウオ、イカの四種で何れも冷凍餌料であった。餌付の比較は表5に示すとおり、沖縄近海では6回の試験結果平均釣獲率はトビウオの場合は両者より若干低下している。マイクロネシア海域では13回の試験結果平均釣獲率はムロアジで1.23%、イカで1.46%、サンマで1.65%を示し、夫々その差は少いけれどもマグロ類は、サンマでの釣獲率が高く、カジキ、サメ類はイカに高い傾向を示した。

表5 餌付の比較

操業海域	餌別	使用 釣針数	マグロ類		カジキ類		サメ類		計	
			尾数	釣獲率	尾数	釣獲率	尾数	釣獲率	尾数	釣獲率
沖縄近海	トビウオ	2,000本	2	0.10	3	0.15	4	0.20	9	0.45%
"	サンマ	2,000"	8	0.40	7	0.35	1	0.05	16	0.80"
"	ムロアジ	2,000"	8	0.40	6	0.30	5	0.25	19	0.95"
マイクロネシア海域	サンマ	5,850"	84	1.43	3	0.05	10	0.17	97	1.65"
"	ムロアジ	4,305"	42	0.97	0	0	11	0.25	53	1.23"
"	イカ	5,040"	45	0.89	6	0.12	23	0.45	74	1.46"

使用漁具数の増減と漁獲の関係

図南丸では200鉢から最高325鉢を使って操業したが、200鉢から250鉢までと251鉢から300鉢に区分して両者の漁獲尾数の差異を調べて見たらおよそ次のような結果が得られた。

先づ200鉢から250鉢を使って操業した場合は延操業79回で漁獲総数は3,108尾で1回当りの平均漁獲尾数は39.3尾となっている。一方251鉢から300鉢を使った場合は延操業110回で5,056尾の漁獲が得られ、1回当りの平均漁獲尾数は45.9尾となっている。斯様に